

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	社会情報システム論1		
英文授業科目名	Social Informatics 1		
開講年度	2007年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-社会知能情報学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	社会知能情報学専攻		
担当教官名	太田 敏澄		
居室	P-515		

公開E-Mail	授業関連Webページ
ohta@is.uec.ac.jp	http://www.ohta.is.uec.ac.jp

【講義の狙い, 目標】

本講義では、社会と人間を結ぶ情報システム学という視点に立脚し、情報システムを意識した社会システム論、社会システムを意識した情報システム論、実態としての社会情報からなる三つの領域からのアプローチについて、オーガニゼーションをキーとした講述を行う。

現代社会の至る所に、コンピュータによる情報ネットワークが存在している。行政のネットワーク化では、国レベルの行政情報化推進計画をはじめとして、地域情報化などで情報ネットワークを活用した取組が行われている。また、企業の情報ネットワーク化では、イントラネット、情報を基盤とした流通機構の改編、サイバーモール、電子マネーなど、さまざまな新しい情報や財の取引形態が出現している。ことに、最近の情報システムは、ソフトウェアが社会的関係を仲介する社会的コンピューティングや、ネットワーク上の仮想空間であるヴァーチャル・コミュニティを実現している。さらに、インターネットに代表される新たな情報ネットワークは、社会において、マスメディアとは異なる双方向的な情報の受発信を実現している。

このような状況を踏まえて、高度情報ネットワーク社会における人文・社会科学的情報概念と自然科学的情報概念との統合を志向し、社会情報システムの機能や構造について理解を深めることとする。

【内容】

社会情報論 組織構造やコミュニケーションを理解するため、集団力学、合理的組織構造、組織構造の進化、現代的組織構造に関する理論やモデルにもとづき、企業組織、社会組織、行政組織について論じ、組織設計や人工実現社会について考察する。

社会システム論 複雑性を把握する方法論を理解するため、システム理論、自己組織化、知的分散システムに関する理論やモデルにもとづき、個人、集団、組織の機能、構造、過程に着目する主体行動モデルについて論ずる。

情報システム論 組織や社会における意思決定や情報処理を理解するため、適応的人間行動モデル、組織や市場の調整モデル、組織学習モデル、エージェントモデル、メディア論などにもとづき、情報システムの機能や創発性について論ずる。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【教科書，参考書】

配布資料を用いる。

参考書

- 「社会情報システム学・序説」、富士通ブックス（1996）
- 「社会情報学のダイナミズム」、富士通ブックス（1997）
- 「環境としての情報空間」、アグネ承風社（2002）
- 「都市と環境の公共政策」、中央経済社（2002）
- 「社会の中の企業」、八千代出版（2002）

【予備知識】

人文社会科学的基础知識があることを前提とする。

【演習】

【成績評価方法及び評価基準】

2回以上のレポートを課す。

【その他】

本講義では、理工学的な手法を用いて、社会科学領域における理論やモデルの構築を行うための思考実験を重視する。情報システム学における一つの基礎的な方法論として役立つと考える。